

作文コンクール “Leading to the Future 未来に向かって～教育・夢・感動～”

2018年 最優秀賞作品「N先生へ」

大阪府立槻の木高等学校 1年 高取小都美さん

「保健室のN先生、亡くなったんやって、ほんまにショック。」

高校に入って初めての夏、何とな見ていたSNSの眩きで、先生の死を知りました。それからしばらくの間、私の耳に先生を弔う色々な言葉が聞こえてきました。

N先生は、私が中学生の時、保健室の先生をやっていました。いつも優しい笑顔で私たちの話に耳を傾けてくれていたのですが、私は相談するのが恥ずかしくて、怪我や友達の付き添い以外でほとんど保健室に行きませんでした。ただ、一度だけ友達と一緒にN先生の所へ行って、悩みを聞いてもらったことがあります。私たちが全部話し終わった時、先生は微笑んだ後、抱きしめてくれて、その温もりに泣きそうになったのを覚えています。

それから一ヶ月も経たないうちに、先生は学校に来なくなりました。ある病気で治療に専念するため、休むのだと集会で教えられました。私は、きっと治るのだと信じて疑いませんでした。二年の冬頃だったと思います。

それから約一年間、先生には会えませんでした。もしかすると、先生とは二度と顔をみることもなく私は卒業するのではないかと思っていた時、先生が学校へ帰って来ました。以前と変わらない優しい笑顔を浮かべているのをみて、安心し、嬉しくなったのもつかの間、先生がかつらをかぶっているのに気づきました。先生が、病気なんてなってなかったかのように振舞っているのをみて、私もそれを気づかないふりをすることしかできませんでした。先生は、一週間後ぐらいに、また、学校から姿を消しました。最後まで、先生の優しい笑顔が崩れることはありませんでした。

先生は、自分のお葬式に生徒を呼ばないで欲しいといていたそうです。先生は、自分の死で泣く生徒がみたくなかったのです。先生は、生徒が、私たちのことが、本当に大好きでいてくれたのです。

これからの時代、技術はもっと進歩していくと思います。もしかすると、人工知能などが学校を全て運営するかもしれません。ですが、人を想う気持ちは人にしか教わることができなと思います。私は、そんな気持ちを大切にすることを社会の発展とともに忘れていけない学校が続いて行って欲しいです。先生が大事に守った生徒の笑顔が消えることのない学校であり続けるのが、私の理想の学校です。